

WHO ファクトシート

小頭症

Microcephaly

2016 年 10 月

重要な事実

- ・小頭症とは、新生児の頭部が生まれつき小さいか、出生後に頭部の成長が止まる状態をいう。
- ・小頭症は稀な疾病である。数千人に 1 人、小頭症の赤ちゃんが生まれる。
- ・赤ちゃんが小頭症かどうかの判定は、生後 24 時間の頭囲を WHO の成長基準と比較し、乳幼児早期における頭部の成長度合を継続的に測定するのが最も確実な方法である。
- ・小頭症の赤ちゃんは、痙攣を起こしたり、成長に伴って身体的障害や学習障害が出てくることがある。
- ・小頭症として生まれるかどうかを調べる特異的な検査法はないが、妊娠第 3 期(7 か月以降)での超音波スキャンでこの問題を確認出来ることがある。
- ・小頭症に対する特異的な治療法はない。

本件ファクトシートについては厚生労働省検疫所ホームページの[こちら](#)でも全文の日本語訳が公開されていますので、ご参照下さい

© World Health Organization

この文章は、日本 WHO 協会が WHO のメディアセンターより発信されているファクトシートのキーファクト部分について、2014 年 3 月に WHO 本部より付与された翻訳権に基づき作成したものです。

ファクトシートには、訳出部分以外にも当該案件に関する基本的情報や詳細情報へのリンク先などが示されていますし、また最新事情に合わせて頻繁に見直しが行われますので、更新日時の確認を含め WHO ホームページでの原文をご確認ください。

Microcephaly

ファクトシート原文は [こちら](#)